

第5号

2010年
3月

NPO 法人かながわ精神障害者就労支援事業所の会

事務局 横浜市港南区芹が谷2-5-2 神奈川県精神保健福祉センター内
TEL 046-244-4511 FAX 046-244-4512
ホームページアドレス <http://www.shokonet.or.jp/jigyosho/>

— 平成21年度第2回研修会の報告 —

精神障害者の働く形 Part2 ～雇用企業等からの発信～

第1部 基調講演「精神障害者の就労について」講師:相澤 欽一 氏

(独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構 障害者職業総合センター 主任研究員)

第2部 パネルディスカッション「雇用企業からの発信！！」

パネリスト 株式会社 みどりや(秦野市) 代表取締役社長 露木 和世氏

フジケース株式会社(伊勢原市) 代表取締役社長 田村 貴寿氏

ファイザー株式会社 横浜パッケージセンター所長 平野 章 氏

助言者 障害者職業総合センター 主任研究員 相澤 欽一氏

コーディネーター NPO 法人かながわ精神障害者就労支援事業所の会 理事 栗原 茂

平成21年11月27日午後2時から4時30分まで伊勢原市立中央公民館にて平成21年度第2回目の研修会を開催しました。秦野・伊勢原精神障害者就労支援ネットワーク(HISSネット)と神奈川県精神保健福祉センターと共催です。

第1部 相澤 欽一 氏の基調講演から

はじめに、精神障害者が働く意味について話された後、雇用管理上の配慮すべき点として、会社が障害者社員を含め、きちっと従業員管理をしていること、個別に配慮する事項があればその点を踏まえる、支援機関の有効活用などを挙げられました。

就労支援をする際の基本姿勢としては、大きく3つに分けて言及され、ひとつは、支援者は、本人が自己理解を深め適切な自己決定ができるよう支援(工夫)すること、二つ目は企業に対して支援のパートナーとして連携・協働を深める、働く場の環境調整を意識すること、三つ目は生活や医療保健分野との連携も視野に入れること、焦ら

ず、その場限りの支援で終わらせないことなどが説明されました。



相澤欽一氏

精神障害者の就労状況については具体的なデータを用いて説明され、仕事を求め、就職している精神障害者の数が増加している様子が示されました。その中で職場でのさまざまな配慮があるから雇用された障害者は能力を発揮しているが、一方で、アンケートに回答した5割の事業所が、「関係機関が連携して行う支援の必要性」を指摘しています。実際にハローワークの紹介で就職した人の四分の一は関係機関によるチー

ム支援を利用しています。以前は、障害者個人の能力を検査等で明らかにして就労支援をしましたが、現在は、企業(職場)の配慮が大きいのではないかと。もっと支援者が連携し、障害者が力を発揮できるように支援し、事業所の側へは、こういうふうにする力を発揮できますよと伝えていくこと大切です。この人はどんな人でどんな支援が大切かをスタートの時点で明らかにしておくことが大事です。また、アセスメントは、よりよい自己理解と自己決定を支援することが大切です。

最後に企業へのアプローチについて言及されました。雇用相談に来た企業の方へは相澤氏は「きちんとした支援機関がサポートしている人を雇用するのが良い」と言っています。具体的にどんな点をどういうふうな配慮があればスムーズに行く、というような話をする支援機関が望ましい。個別のアセスメントができていて、はっきりした個別の配慮事項を言えることです。「最初は緊張しますが、よろしく」というようなあいまいなことではダメです。

第2部 パネルディスカッション

実際に障害者を雇用している企業3社の方々から報告をいただきました。

株式会社みどりやは、秦野の商店街の一角に位置し、LPガスや石油、器具、太陽光発電などを手がけています。社員は20名(うち2名が女性)で、現在1名の障害者、Aさんを採用しています。朝、通勤途中でAさんから「休みたい」と電話が入ると、先代社長が、「時間がかかってゆっくりでもいいから来てください」というとAさんは出勤してくれます。会社にとって必要なのだというメッセージを出しています。

人がもともと持っている優しさ、人を思う心が皆にあって助け合っていかなければ、と



いう思いがあり助けることが大切と話されました。

フジケース株式会社は、伊勢原市内で印刷紙器を作っています。現在、20箇所の作業所へ仕事を出し、障害をもつ研修生を受け入れ、雇用しています。田村社長によると、顧客へは「作業所に一緒に作ってもらった商品であり、社会貢献であること」を強調し販促に繋げているそうです。支援機関へは、現場の従業員へ病気の特性や注意事項を説明することと、補助金の申請についての説明を望んでいます。

ファイザー株式会社横浜パッケージセンターでは26名の障害者が働いています。平野所長は、全社的に取り組んでいる「生きがい働きのもてる職場づくり」運動のもと、「どうしたら仕事が楽しくなるか」、「一日一人を全員ではめる」などの活動を紹介されました。福祉団体は何をしたら良いかについて、企業側は障害者のことがわからないので、積極的に企業訪問し、「こうしたら障害者が働けるようになるのでは」と職場で方法を提案することをすすめています。

会場からは、障害者の悪い点に注目すると就職先が限られてくるが、良い点に注目すると可能性が開けてくるなどの意見も出されました。

(かながわ精神障害者就労支援事業所の会
監事 大島 昭宏)

実習
報告

トライ! 就労準備科コース報告

～職業訓練の3ヶ月間を振り返って～

平成21年度、「トライ! 就労準備科」は、5月生、9月生を迎えましたが、私は9月生を担当させて頂きました。私自身が「トライ!」を担当するのが初めてであり、手探りでの3カ月間でしたが、周囲の方々に助けられ、無事に修了式を迎えられたことに、まずは感謝申し上げます。今年度最後の報告ということで再び手探りの中、今回は、9月生と過ごした3ヶ月間を振り返らせて頂き、合わせて、5月生、9月生の近況を報告したいと思います。

残暑というには厳しい暑さの中、開校式がありました。今回の教室である武藤工業には、大和地区を中心に面接で選ばれた受講生5名、全員男性でした。25歳～40歳と幅広く、当然ですが、就労経験などバックグラウンドの全く異なる5名が今日から3か月間を過ごしていきます。長いような、短いような時間の始まりです。

トライの受講生は、5名～7名で、そのグループによって雰囲気も違います。3か月間終えた後に思った事ですが、講義や、実習の内容が充実しているのは勿論のこと、共に過ごす仲間の「雰囲気」というのがとても大事です。それを受講生や、企業の方々、自分も含めた各支援機関の方々でいいものに出来れば、修了してからの受講生達の最も大きな力になっていくと思うのです。これについては、後半、彼らの近況のところでもう一度触れたいと思います。

まずはトライ!で、何を提供しているかをお伝えしたいと思います。講義では、病気や薬についての一般的な知識を提供する中で、ご自身ついて理解を深めて頂くことや、基本的なコミュニケーションスキルを提供する中で、これまでなかったコミュニケーションの方法や考え方を手に入れてもらうこと、仕事の見つけ方（広告を読む、



ハローワークに行く)や、ビジネスマナー、面接場面を想定しての話し合いや練習などがあります。次に実習ですが、9月生の実習は、「光文図書」、「元町ユニオン鎌倉店」、「武藤工業」、「グラート」、「フジケース」(5月生の実習は以下の4か所;ファイザー横浜パッケージセンター、浦舟ホーム、光文図書、ヨコサン追浜店)の5か所で行われました。9月生は「光文図書」と「ユニオン」は5人全員で、後半は小グループに分かれての実習でした。

これらの内容や実習体験に加え、受講生の中には、トライ!開始前まで、不規則な生活をしてきた方も少なくないため、通うこと、講義や実習で拘束される時間や実際に働いてみるのが、生の体験として「今自分はどのくらいの時間集中していられるだろう」「果たして仕事はできるだろうか」あるいは、「自分が思っていたよりも出来るかもしれない」と客観的に自分を見ることが出来るのがもう一つの貴重な機会なのだと思います。9月生の実習の様子をもう少しお伝えします。慣れない企業に入り、労働することは、どちらかといえば受身でよかった座学とは違います。また、冒頭に書いたように、これまで仕事をしたことのない方、つい最近まで継続していた方、ここ数年は働いていないが、それまでがむしろに働いてきた方など就労経験も様々でし

た。だからこそ、それぞれの立場で助け合いながら進めた時間だったように思います。例えば、朝起きるのが苦手な方に、励ましたり、褒めたりする方がいらっしゃいました。自分に合った仕事がない、始めてみたが上手くいかない…つらい…。これからもきっと同じようなことが起こると思うのですが、ここで体験した、就労実習や職業生活管理以外の、誰か（何か）の支えがあれば多少のつらさは乗り越えられること、障がい者を明かして働くことが企業の中でどうであるか、それをどう受け止めていくかという体験は、仕事選びや、仕事をしていく中で、力や一つの指標になっていくのではないのでしょうか。彼らの体験とは別に、企業側が障がい者を受け入れる時の何らかの参考（いい面も、そうでない面も）になる時間に少しでもなれたなら嬉しく思います。今回実習を受け入れて頂いた企業の方々に感謝すると共に、今後も、受け入れ企業が増えていくことを願っています。

最後に彼らの近況についてです。5月生は5名中4名が現在も仕事を継続され、9月生は今年に入って5名中3名が仕事を始めました。他の方々も現在求職中です。9月生が仕事を始めた時にふと思ったのが、先に書いた「雰囲気」の大事さでした。それを本人、支援者、企業の方々でいいものに出来たことが少なからず、彼らを次に向かわせる力になったのではないかということです。応援してくれる人、共に頑張れる仲間がいることは私が考えているよりずっと心強いことなのだ改めて思いました。9月生の修了式には、これまでになく沢山の関係者に参加して頂き、いい形でしめくりが出来ました。

平成22年度も事業所の会で「トライ！」が開催され、私も一部関わらせていただくことになりました。関係者全員でいい雰囲気を作り、いい時間が出来ることを期待しています。

(横浜メンタルサービスネットワーク 柴 友美)

事務局からのご案内

- 「トライ！就労準備科」(神奈川県委託障害者職業訓練事業)
障害者雇用を検討または実習先の提供を検討しているご担当者の方、ぜひご連絡ください。

- **お問い合わせ・連絡先**

〒233-0006

神奈川県横浜市港南区芹が谷2-5-2 神奈川県立精神保健福祉センター内

「NPO 法人 かながわ精神障害者就労支援事業所の会」(略称：かながわ事業所の会)

メールアドレス kanajigyou@yahoo.co.jp

TEL 046-244-4511 FAX 046-244-4512

ホームページアドレス <http://www.shokonet.or.jp/jigyosho/qa.html>

- **会員募集中!!** 会の主旨に賛同・ご協力して下さる方のご入会をお待ちしております。

会費 : 正会員 個人・団体 5,000円

賛助会員 個人・団体 1口 3,000円(1口から)

振込み先 横浜銀行大和支店 普通 1967450

口座名義 特定非営利活動法人 かながわ精神障害者就労支援事業所の会